

内 分 泌 検 査

	J-ド No.	項目名 (別名・略称)	検査方法 基準範囲	検体名 必要量	容器	保存	所要 日数	採取・提出・条件	備考
免疫学 の 検 査 (内 分 泌)	79109	TSH	IFCC標準化対応法 (CLEIA法) 0.610~4.230 μIU/mL	血清 0.5mL	a	冷蔵	1日		
	79334	FT ₃	CLEIA法 2.39~4.06 pg/mL	血清 0.5mL	a	冷蔵	1日		
	79335	FT ₄	CLEIA法 0.76~1.65 ng/dL	血清 0.5mL	a	冷蔵	1日		
	79332	BNP	CLEIA法 18.4 pg/mL以下	血漿 1.0mL	B-7	冷蔵	1日		

項 目 名	臨 床 的 意 義
TSH	<p>TSHの合成及び分泌はTRHによって刺激され、甲状腺ホルモンによって分泌を減少させる。 (ネガティブフィードバック機構)</p> <p>TSH血中濃度は、甲状腺機能の変化を鋭敏に反映するため、甲状腺疾患の診断として重要な役割を果たす。フィードバック機構の異常、甲状腺疾患と下垂体～視床下部系の異常や、甲状腺ホルモン不応症との鑑別に有用である。</p>
FT ₃	<p>トリヨードサイロニン (T₃) は、血中ではその大部分がサイロキシン結合蛋白 (TBP) に結合しており、遊離トリヨードサイロニン (FT₃) は0.3%にすぎない。しかしこの0.3%のFT₃のみが細胞内に移行してホルモンとして作用する。</p> <p>さらに視床下部～下垂体～甲状腺系機能調節機構により、FT₃は一定の値に維持されているため、FT₃の測定は甲状腺機能およびT₄代謝の鋭敏な指標となる。またFT₃はTBPに影響されず代謝状態を反映するため、甲状腺疾患の診断と治療効果の観察に有用である。</p>
FT ₄	<p>サイロキシン (T₄) は、血中ではその大部分がサイロキシン結合蛋白 (TBP) に結合しており、遊離サイロキシン (FT₄) は0.03%にすぎない。</p> <p>FT₄は甲状腺ホルモン作用を有するものの活性は弱く、実際に甲状腺ホルモンとして作用するものはFT₃で、FT₄はFT₃の前駆体の役割が大きい。しかしFT₄は組織でT₃に転換され代謝亢進などの作用を発現する。血中FT₄は甲状腺機能の状態を直接的に示す指標となるため、種々の甲状腺疾患の診断と治療効果の観察に有用である。</p>
BNP	<p>ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド (BNP) は主に心室から分泌されるホルモンで、心室負荷や心筋肥大、心筋虚血により分泌が亢進する。</p> <p>健常人の血中BNPは極めて低いが、慢性および急性心不全患者ではその重症度に応じて著名に増加することから、心不全の病態把握に有用である。</p>